

「地域社会やまちづくりを拓く女性性の意義と 実際に関する考察」

—— 東日本大震災からの復旧・復興における女性の活動を通じて ——

防災と地域整備分野 野中 里菜

第1章では、本研究における背景と目的並びに研究方法を示した。

NPO等市民活動団体(以下「市民活動団体等」という。)の活動は、1995年の阪神・淡路大震災でのボランティア活動に対する社会の関心の高まりを契機にクローズアップされ、1997年の特定非営利活動促進法(NPO法)の制定により大きく進展をはじめた。同法施行後、この10年余りの期間に全国で5万件超、岩手県内でも470件余の特定非営利活動法人(NPO法人)が認証を受け、災害支援はじめ、福祉や環境保全など様々な分野で活動が展開されている。

2011年3月に発生した東日本大震災の復旧・復興においては、多くのNPO法人が復興支援の活動を行っている。支援団体を統括する東日本大震災支援全国ネットワークには、震災から5年が経過する今もなお600を超えるNPO法人や市民団体が参加し活動を展開している。岩手県内のNPO法人についてみると、認証団体数において、震災後3年間は震災前3年間に比べ、年間22件から55件へと2.5倍に増加しており、多くの団体が復興まちづくりに関わっている。復興まちづくりにおいて、NPO法人の活動が注目され期待されている。

しかしながら、東日本大震災におけるNPO法人の実態は、いまだ十分に把握されているとは言い難い。

このことから、本研究において、私は、既存調査としての東日本大震災からの復旧、復興に向けて活動している市民活動団体等の様々な取組事例と、独自調査としての市民活動団体等を対象とし

たアンケート調査、ヒアリング調査及び復興支援団体「復興 girls」の実践活動を通じて分析し、市民活動団体等が復旧・復興のまちづくりにどのように関わり、どのような役割を果たしてきたのか、市民活動団体等の復興における活動の意義を明らかにするとともに、今後の地域社会やまちづくりを拓く新たな視点(として女性性の重要性)を提起する。

第2章では、NPO法人の活動(存在)意義に関する先行研究を紹介する。

NPOは活動の意義は、政府や多くの研究者によれば、「社会サービスの提供者であること(公共的なサービスの供給主体であること)」、「社会に働きかけてそのありように新しい動きをつくり出すこと(社会変革、社会創造の担い手であること)」とされる。東日本大震災でのNPOの活動において、こうした意義、役割が果たされたのか、また、今回の震災では、これまでに比べ女性の活動、活躍が見られたが、これらの活動によって新たな価値が生み出されている可能性がある。

第3章では、内閣府がまとめた新潟県中越地震、東日本大震災における全国の活動事例を対象に、市民活動に見る意義を考察する。事例の一つに、釜石市復興計画策定委員会があるが、同委員会にはNPOやまちづくり団体が参画し、復興まちづくりへの意見・提言がなされている。

第4章では、独自に実施した岩手県内のNPO法人を対象としたアンケート調査から、復興期における市民活動の実態を分析し、あらたな市民活動としての意義を考察する。アンケート調査からは高齢者の話し相手ケアなど社会福祉分野での活

動や、妊婦、乳幼児の世話、さらには、食事や生活衛生面での支援など保健・医療・衛生の分野での活動が多かった。これらの活動では、気配り、きめ細かな配慮などで市民から信頼を得ている事例がみられる。

第5章では、独自に実施した岩手県内のNPO法人を対象としたヒアリング調査から、復興期における市民活動の実態を分析し、あらたな市民活動としての意義を考察する。

このヒアリング調査事例のなかで、女性ならではの悩みや問題に対する改善、解決の取り組みや暮らしそのものの質的向上に寄与するような活動の展開も見られ、地域課題を市民視点で捉え市民による解決への取組を行っている。

第6章では、筆者がリーダーを務める復興支援団体「復興 girls」の実際の活動を通じ、新たな市民活動としての意義・課題を考察する。

復興 girls の実践活動からは、次のような市民活動団体等の活動の意義がみられる。

- ・ 思い立ったらすぐに行動に移し、横の繋がりを得意とすること
- ・ 人間関係を大切に、結果よりもプロセスを大切にすること
- ・ 流行や情報に敏感であること
- ・ 生活経験ゆえに生み出されること
- ・ きめ細やかさや、気づかい、愛嬌があること

第7章では、東日本大震災からの復興に見えてくる市民活動団体等の活動の意義を、これまでの第3章から第6章までの考察を踏まえて整理する。

アンケート調査、ヒアリング調査及び復興 girls 実践活動からは、次のような市民活動団体等の活動の意義がみられる。

- ・ 人・組織・活動を緩やかに繋ぐ生活者としての行動（横の繋がりを交流を持つことを得意とすること）
- ・ 成果重視からプロセス重視へ（結果も大切にするが、それ以上にプロセスを大切にすること）
- ・ 行動の中での方法の生成（議論に時間をかけるよりもすぐに行動に移せること）

- ・ 生活経験から創発する自覚と行動（日常生活に関心が高いことや日常生活に密着しての行動）

- ・ 社会や状況に対する俊敏性とセンス
- ・ 共感を育む場・関係づくり

第8章では、東日本大震災における復興活動・支援活動というあらたな市民活動を通して、今後の地域社会やまちづくりを拓く新たな視点の可能性を提起する。

アンケート調査、ヒアリング調査及び復興 girls 実践活動を踏まえ、次のような女性性を提起する。ヒアリング調査や復興ガールズの実践活動から、「命を守り育てる・献身的で包み込む・思いやり愛情を持つなどの母性を持っている」、「気づかい・気配り・優しさ・愛嬌・かわいらしさを持っている」、「日常生活に高い関心を持っている」や「横の繋がりをネットワークを大事にする」、「結果よりもプロセスを大事にする」、「人間関係を大切にする」、「情報や変化に敏感である」など、女性性の発揮も見られた。

こうした女性性の発揮により、様々な女性ならではの悩み・問題の改善、解決が見られたほか、暮らしの質的な向上に寄与するような効果も生じている。

第9章では、以上の結果をもとに総括する。

今回の東日本大震災におけるNPO活動は、これまで以上に女性の活動、活躍が増えている。こうした活動は、これまで男性が中心であったNPO活動の成果を、女性の視点あるいは相対的に女性の方に強く現れる特徴、母性、優しさ、柔和さ、気配りであったり、横のネットワーク作りや人間性を大事にするなど、を活かした取り組みは、社会生活の質を持ったサービスをさらに向上、高めていくことに繋がっている。言い換えれば、地域社会の同じ課題を解決する上で、女性の視点、あるいは女性の特性を活かした取り組みは、より質の高いサービス、付加価値を高めるサービス提供に貢献するという意義があるといえる。

地域社会の課題の解決に向け、NPOのより質の高いサービスや新たな価値の創造は、今後ますます

ます求められるものと思われる。これに応えていくためには、NPOへの女性の参画を促進していくことはもちろんであるが、同時に、社会が女性性(女性の視点、女性の特徴など)の意義を理解し共通認識を持つことが重要となってくる。こうした認識のもとでの女性性を発揮する場面、機会を社会が増やしていくことへの努力が必要である。

また、もう一つのNPOの意義とされている社会変革性、実践を伴う社会提案、政策提案を通じ

政策形成に参加するという機能については、いくつかの事例がみられたものの、十分といえるものではなかった。社会を変えていくための政策提案をするためには、地域社会の実態・課題を常日頃から把握する日常活動と、自らが企画立案・政策立案できる能力開発、人材確保の努力が必要となってくる。これらの課題をNPO自らの努力と政府、自治体あるいは民間企業の知恵と工夫で乗り越えていかなければならない。